内モンゴル・ホルチン地域におけるモンゴル族の住居に関する研究

－赤峰市バーリン右旗チャガンオスガチャを事例として－

A STUDY ON THE LIVING CONDITIONS OF HORQIN.MONGOLIA

Ulanhad City beeran baren hoxuu chagan os gachaa as subject of study

イジョウ*, 中山 徹**, 野村理恵***

Yujiao, Toru NAKAYAMA and Rie NOMURA

Because of the historical background, living environment and variety of occupation, Mongolian nomadic people's living style has been changed to settlement. Mongolian nomadic people's living style has been changed, for example, changed from nomadism to semi-agricultural and semi-pastoral, the villager which people live together were built up. The research purpose of this paper is to clarify.

- 1.the change of recent occupation, living and lifestyle.
- 2.the change and utilization of layout

Keywords : Inner Mongolia, Dwelling house, region agriculture and stockbreeding, layout drawing

内モンゴル, 住居, 半農半牧, 間取り

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

歴史的経緯、生活環境、生業の変化などにより遊牧民族であるモンゴル族の住居は定住化へ進んでいる。このような影響を最初に受けたのはホルチン地域で¹⁾、この地域は清朝の中頃から急速な開墾農地化の波にさらされてきたとしている。漢族の移住とともに遊牧民族であるモンゴル族の生業は遊牧から半農半牧へ変化し、集住する村落を形成した。村落から近い場所で農耕し、村落から離れた水草の豊富な場所にドブ^{注1)}を建て牧畜も営む農業・牧畜が両立する生活様式になり、固定式住居に住む生活が始まったという。ホルチン地域とは現在の通遼市、赤峰市、ヒンガン盟などの約21万平方キロメートルの地域を指し、約294万人のモンゴル族が暮らしている。内モンゴル自治区^{注2)}のモンゴル族人口三分の二以上を占めている。

本稿では内モンゴル半農半牧地域における農牧民の住居を対象として、①農牧民の生活様態と農牧業の基本状況を把握し、②住居の間取りの変化過程と各居室の利用目的を明らかにすることを目的とする。

1.2 既往研究と本研究の位置付け

伝統的な遊牧では、家畜を連れて水や草の状態がよい牧地を求めて一箇所に定住することなく、居住する場所を移動させる。また、家畜が牧草地の草を食べ尽くさないように、定期的に別の場所へ移動する。遊牧する範囲はある程度決まっているが、個人の占有的な牧地はなく、移動場所、ルートなどはその都度異なる。そのような

表1 内モンゴル自治区の牧畜形式の分類

	移動	集落	観光	敷地	地形
シリンゴル	○	×	○	広い	草原
アラシャ	○	×	○	広い	沙漠
ホルチン	×	○	×	狭い	平地

遊牧は内モンゴルではなく、定住型の牧畜に変わっている。

定住型の牧民は年間を通じて一ヶ所で暮らす者と移動する者に分かれる。移動する場合でも、固有の夏営地、冬営地など定期的に訪れる占有的牧地をもっていることが普通で、気候の変動や家畜の状況にあわせながら夏営地と冬営地をある程度定まったルートで巡回している。現在、内モンゴル自治区のモンゴル族を牧畜形式及び地域性から分類すると（表1）、シリンゴル・フルンボイルを含めた草原地域、アラシャ盟を含めた沙漠地域、ホルチン地域の半農半牧地域に分かれる。

シリンゴル・フルンボイルなどの草原地域では、定住しているものの、夏の放牧時期や、秋の草刈り期には移動を伴うことが多い。住居が固定しているため、世帯全体で移動することは少なく、牧畜をする人のみがゲルを使用して移動する場合が多い。アラシャの沙漠地域では固定式住居の利用が普及し一世帯で複数の住居を持ち、年間を通じて住居を移動している。固定式住居の利用用途は牧業であるが、観光の時期には観光業のためにも利用している。ホルチン地域では、牧業と同時に農業にも従事しているため、年中を通じて一ヶ所で生活している。

内モンゴル自治区では、地域によって定住化の過程は異なってお

* 奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士後期課程
** 奈良女子大学大学院人間文化研究科 教授・工博
*** 北海道大学大学院工学研究院 助教・博士(学術)

Doctor Course, Graduate School of Nara Women's Univ.
Prof., Graduate School of Nara Women's Univ., Dr.Eng.
Assist. Prof., Faculty of Engineering, Hokkaido University, Ph.D.

り、その中でホルチンはより早く伝統的な遊牧生活が定住化し、半農半牧へ変化した地域である。これまでに、モンゴル族の定住化に関する研究は数多く蓄積されている。

ホルチン地域の定住過程について、珠颯の研究²⁾では、漢民族がホルチン地域へ移住した要因及びその過程、内モンゴル地域で土地を取得して定住した過程が明らかにされている。ボルジギン・ブレンサイン³⁾の研究では、ホルチン地域モンゴル族の定住と農耕化の過程をたどっている。さらに、定住化に伴う住居変化について、海日汗⁴⁾の研究では、ホルチン地域のモンゴル族の住居についてゲルからバイシン(固定式住居)への変容及びゲルとバイシン空間構成概念の関連性を明らかにしている。曹榮梅⁵⁾の研究では、ホルチン地域の半農半牧に転換したモンゴル族初期固定式住居(本稿3.1で後述するバンチャンゲルまで)について、その基本構造、造り方、飾りと行事儀式などの視点から分析している。しかし、初期固定式住居から現在の固定式住居(本論3.1で後述するレンガ造バイシン)までの変化を明らかにした研究はない。

内モンゴルの他地域を対象とし、本論と同様の視点で調査した研究は、シリングル⁶⁾、アラシャ⁷⁾で行われている。両地域とも牧畜地域であり、ホルチンのように半農半牧地域で古くから定住化が進んでいた地域における現在の固定式住居までの間取りの変化や居室の利用状況に関する研究は見当たらない。ホルチン地域は、生業転換によるゲルからバイシンへの変容のみならず、定住化したうえでモンゴル族の生活様式や文化がいかに引き継がれているのか、あるいは変容しているのかといった視点での分析に相応しい調査対象であると位置づける。

図1 一般的な住宅と敷地の関係図

草置き場、庭、家畜小屋、野菜畑などをすべて配置しなければならない。③モンゴル族の移動式住居(ゲル)の出入り口は南側もしくは南東側に置かれる。固定式住居も同様であり⁸⁾、住居の南側に庭が設けられ、道路につながる。そうすると便利性から家畜小屋などは住居の東もしくは西側に配置し、南側には庭を確保し、住宅の複雑化、規模の拡大は住居の北側に生じると考えられる。

1.3 研究の概要

調査地のチャガンオスガチャ(図2)は赤峰市北部に位置しているバートル右旗ジラガリンジャムソムに所属し、半乾燥気候の地域であり、牧畜業を主としている半農半牧地域である。現地調査は

2012年8月5日～14日に行った。調査世帯はガチャ長を訪問し、①古いバイシン^{注4)}を持っている、②自宅の変化過程をよく知っている、③最近、新しくバイシンを建てた、の3条件をすべて満たす12世帯の紹介を得た。

調査方法は実測調査とヒアリング調査である。農牧民の現住居の実地測量と住宅の建設時期、建築材料、設備、生業、家族構成、各居室の利用などについてヒアリングを行った。住居の変化過程を把握するため旧住居について口頭で聴き取り図面を作成した。また、農牧民の現住居や庭、家畜小屋、野菜畑を含めた敷地を測量し平面図を作成し、全敷地と各バイシンの外観や内部をより明確にために写真で記録した。

図2 調査地チャガンオスガチャの位置図

1.4 調査地の概要

この地域では、清朝末期にバートル旗が「旗の西部」を開墾地として提供したことで、漢族の流入が始まったという⁹⁾。その後、民国初期にはさらに旗南部の草原を「生計地」として漢族に放出したことで、外来人口の急増を招いた。1960年代に入ると、中国政府の定住化政策を受け、一部のモンゴル族はバイシンを建てるようになった。それでも臨時移動の一種となるオトル^{注5)}は続いていた。1978以前は農地・牧畜地と家畜は人民公社の公有財産であった。1974年、バートル右旗政府から「草原ダム」を造る計画が出され、調査対象ガチャ内に住む世帯の転居が始まった。この転居は1980年代頃まで続き、この期間に全世帯が新たな住宅を建てた。1978年以降「改革開放政策」の一つである全国的な「第一次土地分配」^{注6)}を実施した。土地分配により、農地・家畜を個人世帯へ分配した。そして、1996年の「第二次土地分配政策」で農牧民の土地所有権を30年間とした。さらに、2008年の全国人民代表大会において70年間の長期的所有権を認めることが決定された。全国の農地は個人に分配されているが、牧畜地は個人に分配しているところと共用しているところがある。現在、ホルチン地域では、バイシンを含めた各自の敷地と農地は個人に分配され、牧畜地は基本的に個人に分配されているが当該地の状況により共用しているところもある。

上述のような土地利用や定住過程において、ガチャの位置づけが重要となる。ガチャは、内モンゴル行政単位の一つであり、省(自治区以外)に置かれている村と同じレベルである。かつての人民公社の単位とほぼ一致しており、ガチャが所有している宅地、農地、牧畜地などの所有権の分配、ガチャが所有する道路、公共施設の設備管理に関する権利を有している。牧畜地域では、散居のためガチャの範囲は地形や親族のまとまりなどにより、行政的なガチャの区画が決定される。半農半牧地域では各世帯の敷地が隣接しており、数十軒から数百軒が集落を形成している。一般的にはこの集落が一つのガチャになる。

表2 調査地基本状況

事例	世帯基本状況						家畜・農牧業										
	世帯	人数	世帯主年齢	生業・収入			家畜種類					農牧業(面積万㎡)					
	家族構成			農業	牧業	その他	牛	羊	ヤギ	馬	その他	農耕種類	農地面積	借用農地	牧畜地	牧畜地ドグイラン所有	草刈り地
1	夫婦(親)	2	58		●	□	40	500	-	1	犬1 鶏800 猫4	a	10	-	200	-	66.7
2	夫婦(息子)+娘	3	27	□		□	10	4	320	4	犬1 猫1	a b	6	23.3	33.4	-	4
3	夫婦	2	37	○	○	-	-	100	-	-	犬1 豚1 猫1	a	7	23.3	-	-	3.7
4	夫婦+娘	3	41	○	○	-	-	100	-	-	犬1 豚1 鶏7 猫2	a b	1.3	4	27.3	-	-
5	夫婦+親(夫)+息子	5	30	△	□	○	-	42	96	-	犬1 鶏3	a b	2	2	32	-	0.7
6	夫婦+息子	3	33	△	△	□	10	15	15	2	犬1 鶏2	a b	4.1	-	27.3	-	3.7
7	夫婦+娘	3	41	○	□	△	-	33	-	-	犬1 鶏10	a b c	4.1	10.6	-	第1ドグイラン	2
9	夫婦+父(夫)+息子	4	35	○	△	-	15	-	-	-	犬2 鶏8	a	2.5	0.7	-	25世帯で733万㎡	1
10	夫婦+母(夫)+息子	4	40	○	-	-	-	-	-	-	鶏5	a d	6.2	-	-	-	0.87
11	夫婦+母(夫)+息子	4	30	●	△	-	-	60	-	-	犬1 豚1 鶏20	a c d	3.3	-	-	-	1
12	四人兄弟	4	50	●	-	-	-	-	-	-	-	a c	4.1	-	-	-	0.7

生業・収入：●収入の75～100% ○収入の50～75% △収入の25～50% □収入の0～25% 農耕種類：aトウモロコシ(家畜の穀食を供給) bヒマワリ(種) cソバ d緑豆

2. 調査の内容

2.1 調査場所の概要

調査を行ったチャガンオスガチャ(図3)には六つのドグイラン^{注7)}がある。総人口約1200人、98%以上がモンゴル族である。土地総面積16.1万畝^{注8)}(107.3km²)、このうち農地の面積は約2万畝(13.3km²)、牧畜地・草切り地の総面積は約11万畝(73.4km²)であり半農半牧地域の村落である。

調査地ガチャの宅地は道路に沿っている。宅地の周りには林地がある。農地は宅地の敷地内と村の北部と東部に集中している。牧畜地は村の西山の牧畜地(村より西方向へ0.5キロメートル。)と南砂丘牧畜地(村より南方向へ1.5キロメートル。)の二つの場所にある。南砂丘牧畜地の一部は草切り地になっている。

図3 調査ガチャの中心部

2.2 農牧業の実態

2.2.1 農牧地の所有

調査対象12世帯の内、第4ドグイランに所属する7世帯は(事例1～7)、各自の牧畜地と農地の使用权を有している。第1ドグイランに所属する5世帯は(事例8～12)、農地使用権は各自で所有しているが牧畜地の使用权は「ドグイラン所有」で、管理や使用はドグイラン単位で行われる。

2.2.2 各世帯基本状況及び家畜・農耕種類

ヒアリング調査によると12世帯の基本情報は表2の通りである。

事例1.2: 事例1と2は親族である。親(事例1)、息子夫婦と娘1人(事例2)で暮らしている。家は別々で農業、牧業は同じ土地で協力して行っている。主に牧畜を営み、家畜の穀食を供給するためトウモロコシを植えている。また近年、養鶏に着手している。

事例3: 夫婦2人の家族であり、主人は4ドグイラン長の職務を担当している。主に農牧業を営んでいる。

事例4: 夫婦と娘の3人家族であり、主人は農牧業を営み、妻煉瓦工場で働いている。娘はソムの中学校に通い、学校の寮に住んでいるが2週間に一回自宅に戻る。

事例5: 夫婦、主人の両親と息子の5人の家族である。主に農業だが、トラクターを所有しており、耕作を他人から受託して収入を得ている。息子はソムの幼稚園に通っている。

事例6: 夫婦と息子の3人の家族であり。主に農牧業だが、日用品の商店を営んでいる。息子はソムの小学校に通い、学校の寮に住んでいるが2週間に一回自宅に戻る。

事例7: 夫婦と母親の3人の家族である。母親と妻が農牧業を営み、主人は農牧業に従事しながら休みの時期にガソリン・スタンドでアルバイトをして収入を得ている。

事例8: 夫婦と娘の3人家族であり、主人がドグイラン長の職務を担当している。主に農牧畜を営み、その他にトラクターを使い、農耕を他人から受託して、耕作で収入を得ている。娘はダーバン鎮の中学校に通い、寮に住んでいて、夏、冬休みには自宅へ戻る。

事例9: 夫婦、主人の父親と息子の4人の家族である。家族みんなで農牧業を営み、息子はソムの小学校に通い、寮に住んでいるが2週間に一回、自宅に戻る。

事例10: 夫婦、主人の母親と息子の4人家族である。夫婦と母親が牧畜を営み、息子はソムの小学校に通い、寮に住んでいるが2週間に一回、自宅に戻る。

事例11: 夫婦、主人の母親、息子の4人家族である。夫婦と母親で牧畜を営み、娘はソムの小学校に通い、寮に住んでいるが2週間に一回、自宅に戻る。

事例12: 4人兄弟の家族であり、全収入を農業で得ている。

また、家畜の内訳比率を調査した。12世帯の家畜は計1377頭である(表3)。羊が約62%、ヤギが31%、牛が5%、馬0.5%、犬が0.7%となっている。主に飼っているのは羊、ヤギ、牛で、モンゴル族の伝統的な「五畜」^{注9)}の一つである馬は近年その数がだんだん減少している。

近年、経済状況の向上により農牧民の世帯で農業関連機具などが増えている。昔は移動手段であり、農作業や放牧に利用してきた馬は車やトラクター、オートバイに取って代わられた。現在、馬はモンゴル族の伝統的な活動である競馬^{注10)}に参加するために飼っている。内モンゴル地域では人民公社時代以前から住民の主食であるトウモロコシ、モンゴルバダ(モンゴルキビ)ソバ、豆類(黄豆、緑豆等)等の穀類、また野菜類等が栽培されてきたが、近年になり沙漠化や農地の面積が狭くなったことが原因で、主にトウモロコシを栽培するようになった。トウモロコシは住民の主要な食料源であり、余剰分は販売し農業の収入になり、またトウモロコシの茎葉

は家畜の飼料として利用されている。

調査地では表4の通り、100%の世帯でトウモロコシを栽培しており、ヒマワリ(種)は42%、ソバは25%、緑豆17%であった。

表3 家畜内訳比率

種類	羊	ヤギ	牛	馬	犬	総頭数
頭数	854	431	75	7	10	1377
比率	62.0%	31.0%	5.3%	0.5%	0.7%	—

表4 主な農耕種類

種類 \ 事例	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トウモロコシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒマワリ(種)	—	○	—	—	○	○	○	○	—	—	—	—
ソバ	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	○	○
緑豆	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	—

2.2.3 農地の利用

一年間の農業期間は①1月～4月中旬:農作物の出荷、畑の片付け、施肥、種子等を準備②4月中旬～10月:農作物の栽培期(耕作、播種、成育、収穫)③11月～12月:農作物の一部出荷、農作物の茎の刈り取りに分けられる(表5)。3月～4月中旬に、畑を片付け、施肥、種子などを準備する。4月中旬から播種が始まり、7月までは除草と追肥が必要な成育期間である。7月～8月中旬までは防虫、害虫 農薬散布の時期。8月中旬～9月下旬までは農閑期であり、農作物保管場所を確保し、収穫するための機具を準備しながら干し草を刈り、冬期家畜飼料として穫り入れる。9月下旬～2月までは農作物の収穫、農作物の茎を牧草・燃料用に刈り取る、または農作物を出荷する。

家畜の飼育は出産時期(10月下旬～4月中旬)が一番の繁忙期である。家畜の出産時期は家畜によって異なり、牛の出産時期は3月～4月中旬まで、羊、ヤギの出産時期は10月下旬～4月頃である。3月～4月中旬までは出産、予防接種をする。4月下旬～6月初旬までは家畜の毛を刈り、薬剤で洗う。6月初旬～9月下旬までは家畜の売買時期であり、家畜の売買により優秀種を入手する。

2.2.4 家畜の管理方法

家畜の管理方法は以下の3つに分けられる。①頭数が多い場合(事例1・2・3)、牧夫を雇用する。牧夫は主人の家族と一緒に生活し、年一回、終了後報酬を得る。②家畜の数が少ない場合(事例7・8)。親戚の家畜と一緒に飼育する。③それ以外 (事例4・5・6・9・11)。各自で管理もしくは複数世帯で順番に家畜を管理する。

以上は馬・牛・羊・ヤギなどの管理方法であり、犬、鳥、猫などは各家で飼っている。

表5 年間の農牧業

季節	春			夏			秋			冬		
月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
農業	畑の片付け、 施肥、種子な どを準備		播種、除草、追肥…		防虫、害虫 農薬散布		冬用の干し 草を刈り取 り		農作物の収 穫	農作物の一部出荷、 農作物の茎の刈り取 り		農作物の出荷 畑の片付け
牧畜業	出産、予防 接種		家畜の毛を切 り、薬剤で洗う		家畜の売買			予防 接種	ヤギ、羊など家畜出産時期			

3. 農牧民の住まい

3.1 ゲル・バイシンの種類

調査対象地域では、ゲル・バイシンの材料、構造から5つの種類に分類される。

①ブムブゲングル: モンゴルゲル^{注11)} の外形と似た形の一式固定式ゲル。ブムブゲングルとはボリガス(柳樹枝)を編み円形に立て、外側と内側に牛糞を塗りつけたゲルである。調査地域では現在存在していなかった。

②ジムゲル: 多くは二室バイシンであり、川や池などの周囲に建て、湿潤気候の場所に適応させている。土を30×20cm大の長方形の型で掘りおこし、それを積み重ねて壁を造る。壁の厚さはほぼ50～55cmである。屋根材は荻である。ハンジは石片を石で支え、間隙を泥で塗る。

③ドーチャングル: 三室の場合が多い。1mほどの石壁を作り、石壁の上に土と草を攪拌した材料で壁をつくる。壁の厚さは10cm程度ずつ材料を重ね徐々に高くしていく。壁の厚さはほぼ50cmである。屋根材は荻またはトウモロコシ・高粱など乾茎である。ハンジは石片を石で支え、間隙を泥で塗る。

④バンチャングル: 木の型枠を作り、その間に土を入れ、足で踏みかため、もしくは鉄の槌でたたいて壁をつくる。壁の厚さはほぼ50cmである。屋根材は荻またはトウモロコシ・高粱などの乾茎である。ハンジはほぼ後ろ側に設置している。ハンジの材料は日干し煉瓦^{注12)} である。

⑤レンガ造バイシン: 壁、床、ハンジなどの材料に煉瓦¹⁰⁾ を利用したバイシンである。屋根の材料は屋根瓦である。壁の厚さは大体40cm前後である。

3.2 バイシンの間取りの変化過程

図4は調査対象世帯の住宅の変化を①土地分配以前(1949～1978)②第一次土地分配～第二次土地分配まで(1979～1996)③第二次土地分配～(1997～2012)の三期で整理したものである。

事例1・2: 事例1と2は親族である。1963年頃までブムブゲングル、1964年に二室ジムゲルを新築^{注13)} し、ブムブゲングルは倉庫として利用した。1972年に右に一室を増築^{注14)} した。1981年にブムブゲルを潰し、敷地内の別の場所に三室ドーチャングルを新築した。1990年になり、ドーチャングルは倉庫として利用し、隣に多室レンガ造バイシンを新築し、家族全員で暮らしていた。2010年息子が結婚し、息子家族はレンガ造バイシン(1990)を利用している。1992年にジムゲルの横に三室レンガ造バイシンを新築し、親夫婦が住んでいる。

事例3: 1975年三室ドーチャングルを新築し、家族全員で暮らしていた。2011年に結婚したため他の敷地で多室レンガ造バイシンを新築した。

時期 事例	土地分配以前 (1949～1978)	第一土地分配～第二次土地分配 (1979～1996)	第二次土地分配～ (1997～2012)
1	<p>1963 以前一室ブムゲンゲル</p> <p>1964 年二室ジムンゲル新築</p> <p>1972 年増築 1981 年以降倉庫として利用</p>		<p>S = 1/100 1992 年三室レンガ造パイシン新築 現在は親夫婦が利用</p>
2		<p>1981 年三室ドーチャングル新築 1990 年以降倉庫として利用</p>	<p>S = 1/100 1990 年多室レンガ造パイシン新築 現在は息子夫婦が利用</p>
3		<p>1975 年三室ドーチャングル新築</p>	<p>S = 1/100 2011 年多室レンガ造パイシン新築</p>
4		<p>1976 年三室ドーチャングル新築 2004 年以降倉庫として利用</p>	<p>S = 1/100 2004 年多室レンガ造パイシンに建て替え</p>
5	<p>1960 年以前一室 ブムゲンゲル</p>	<p>1983 年三室ドーチャングル新築</p>	<p>S = 1/100 1997 年改修</p>
6		<p>2005 年三室レンガ造パイシン新築</p>	<p>S = 1/100 2009 年増築、改修</p>

図 4 パイシンの変容過程

時期 事例	土地分配以前 (1949～1978)	第一土地分配～第二次土地分配 (1978～1996)	第二次土地分配～ (1997～2012)
7	<p>1964 年以前 一室ブムブゲングル</p> <p>1965 年二室ジムンゲル建て替え</p>	<p>1980 三室ドーチャングルに建て替え</p> <p>1992 年多室レンガ造バイシンに建て替え</p>	<p>2003 年増築、改修</p>
8	<p>1970 年以前 一室ブムブゲングル</p>	<p>1970 年三室パンチャングルに建て替え</p> <p>1992 年三室ドーチャングルを購入 (この建物は 1980 年頃建てられた)</p>	<p>2000 年増築</p>
9	<p>1970 年以前一室ブムブゲングル</p> <p>事例 9i 1970 年二室パンチャングル建て替え、1984 年以降母親が利用</p>	<p>事例 9ii 1984 年三室ドーチャングル購入 (この建物は 1978 年建てられた)</p>	<p>1990 年以降増築</p>
10	<p>1970 年以前一室ブムブゲングル</p> <p>1970 年二室ジムンゲルに建て替え</p>	<p>事例 10i 1980 年三室ドーチャングル新築 2011 年以降母親が利用</p>	<p>事例 10ii 2011 年 三室レンガ造バイシン新築</p>
11	<p>1970 年以前一室ブムブゲングル</p> <p>1971 年二室ジムンゲルに建て替え</p>	<p>1980 年三室パンチャングルに建て替え 1992 年改修</p>	<p>2000 年増築</p>
12		<p>1980 年代三室ドーチャングル新築 1992 年購入 (この建物は 1980 年建てられた)</p>	<p>2011 年改修</p>

図4 バイシンの変容過程

凡例：▲入口 ○窓ストーブ D ドトルゲル (内の部屋) G ガダングル (外の部屋) Ju ジュンゲル (東の部屋) B バルンゲル (西の部屋) Ho ホーロンゲル (食堂) T トゴンゲル (台所) Hm フムリグ (倉庫) Jo ジョチンのウロ (居間) U オンタフゲル (寝室) Dn ドムドゲル (中の部屋) A アルンゲル (奥の部屋) Wu ウーデンゲル (風除室)

事例4：1976年に三室ドーチャングルを新築した。2004年に、ドーチャングルを潰し、多室レンガ造パイシンに建て替え^{注15)}た。

事例5：1960年以前はブムブゲングルに暮らしていた。そのあとブムブゲングルを倉庫として利用し三室ドーチャングルを新築した。1983年にブムブゲングルと三室ドーチャングルを潰し、三室のドーチャングルに建て替えた。1997年に壁をレンガ造に改修^{注16)}した。

事例6：2005年に結婚し、三室のレンガ造パイシンを新築した。2009年に右側に倉庫（Hm）と車庫（Te）、ウーデングル（Wu）を増築した。ジュングルのハンジ^{注17)}を外して、販売室とし、ガダンゲル（G）を改修し居間と子どもの寝室に分けた。

事例7：1964年以前はブムブゲングルに暮らしていた、1965年頃にはブムブゲングルを潰し、二室ジムングルに建て替えた。1980年にはジムングルゲルを潰し、三室ドーチャングルに建て替えた。1992年にドーチャングルを潰し、レンガ造パイシンに建て替えた。2003年に、春冬季の砂ぼこりと風を遮るためウデングル（Wu）を増築し、同時に屋根、住宅の中を改修した。

事例8：1970年以前はブムブゲングルで暮らしていた。1970年以降1992年までは三室パンチャングルに建て替えた。1992年三室ドーチャングルを購入^{注18)}し、転居した（この建物は1980年頃建てられた）。2000年、後ろに台所（T）と倉庫（Hm）を増築した。

事例9：1970年以前はブムブゲングルで暮らしていた。1970年に二室パンチャングルに建て替えた。二室パンチャングルが現在、母親が利用している。1984年に三室ドーチャングルを購入し転居した。1990年に寝室の前に設置していたハンジを後ろに移動し、後ろに倉庫（Hm）と台所（T）を増築した。

事例10：1970年までブムブゲングルで生活していた。そのあとブムブゲングルを潰し、二室ジムングルに建て替えた。1984年に現在のところへ転居し、三室ドーチャングルを新築した。現在、母親が住んでいる。2011年に三室レンガ造パイシンを新築した。

事例11：1970年以前はブムブゲングルで暮らしていた。1971年にブムブゲングルを潰し、二室ジムングルに建て替えた。1980年にジムングルを潰し、三室パンチャングルに建て替えた。1992年に間取りを改修した。2000年にウーデングル（Wu）を増築した。

事例12：1992年に三室ドーチャングルゲルを購入し（この建物は1980年建てられた）、2011年改修した。

3.3 パイシンの平面タイプ

パイシンの平面タイプは図5の5つに分類できる。（アルファベットで記載した居室の名称は図5で表示している）

- ①一室：一室である。南側の入口から入り、真ん中にストーブが設置されている。1960年代以前はほぼこのタイプである。
- ②一行二室：二室DとGがある。右側の入口から入りすぐG、左側がDである。南窓側にはハンジを設置している、材料は日干し煉瓦造である。ストーブはハンジと繋がるようにガダンゲルの前側に設置されている。このタイプは1960年代以降1970年代末まで多く見られる。
- ③一行三室a：三室Ju、B、Gがある。真ん中がG、左側がB・右側がJuである^{注19)}。真ん中の入口から入りすぐG。Ju・Bには南窓側の下にハンジを設置し、材料は日干し煉瓦である。ストーブはハンジと繋がるようにGの前側に設置されている。このタイプは1970年代半ばから1990年代はじめまで多く見られる。

分類	住宅タイプ	各部屋の名称
一室
一行二室		D ドトルゲル（内の部屋） G ガダンゲル（外の部屋）
一行三室		Ju ジュンゲル（左の部屋） G ガダンゲル（外の部屋） B バルンゲル（右の部屋）
一行三室b		Ju ジュンゲル（左の部屋） G ガダンゲル（外の部屋） B バルンゲル（右の部屋） T トゴンゲル（台所）
二行三室		Ju ジュンゲル（左の部屋） G ガダンゲル（外の部屋） B バルンゲル（右の部屋） T トゴンゲル（台所） Hm フムリグ（倉庫） Ho ホーロンゲル（食堂）
二行多室		Ju ジュンゲル（左の部屋） G ガダンゲル（外の部屋） A アルンゲル（奥の部屋） Dn ドムドゲル（中の部屋） U オンタフゲル（寝室） T トゴンゲル（台所） Jo ジョーチンネゲル（居間） Ho ホーロンゲル（食堂） Wu ウーデングル（風除室）

図5 パイシンの基本タイプ

- 一行三室b：一行三室aの真ん中Gに間仕切りを入れたタイプ。Ju、B、G、Tがある。真ん中のGの南から入り南側のG北側がTになった。この時ハンジは北側に設置するのが多かった。ハンジの材料は日干し煉瓦である。ストーブはハンジと繋がるようにGの後側に設置されている。Gを分けるタイプは1980年代末から始まった。
- ④二行三室：Ju、B、G、T、Hmがある。一行三室bの後ろ側に一行の部屋を増築し、一行から二行になる。増築部分はTとHmになり、ハンジのためのストーブ設置場もここになっている。このタイプは1990年代始めから2000年代始めまで多く見られる。
- ⑤二行多室：Ju、B、G、T、Jo、Ho、U、Hm、A、Dn、Wuがある^{注20)}。入口から入りすぐG、右側はJu、後ろ側にはハンジが設置され、寝室である。左側はJo（居間）である。また、専用的に食事するHo（食堂）、調理するT（台所）、U（客寝室）、A（宗教儀式する部屋）が別々に設置されている。このタイプは2000年代以降多く見られる。

間取りの変化をまとめると平面の基本タイプは1960年代頃までは一室の固定式ブムブゲングル。そのあと1960年代以降1970年代末頃までは一行二室型。1970年代半ば頃から1990年代始め頃は一行三室が多い。2000年代始め頃までは二行三室型のタイプが主流であり、その後は二行多室型を建てる世帯が増えてきた。

3.4 ゲル・パイシンの種類と平面タイプの関係

表6 ゲル・バイシンと平面タイプ

ゲル/タイプ	円型	一行二室	一行三室	二行三室	二行多室
ブルムブゲン	○				
ジムン		○	○		
ドーチャン			○	○	
パンチャン			○	○	
レンガ造				○	○

ゲル・バイシンの種類と平面タイプの関係をみる
(表6)。一室
(1960年代前)の

タイプはブルムブゲングルである。一行二室(1960年代～1970年代末)のタイプはジムンゲルの場合が多い。一行三室のタイプ(1970年代半ば～1990年代初)はジムンゲル、ドーチャンゲル、パンチャンゲルである。二行三室(1990年代初～2000年代初)のタイプはドーチャンゲル、パンチャンゲル、レンガ造バイシンである。二行多室(2000年代以降)のタイプはほとんどレンガ造バイシンである。

3.5 居室のタイプによる名称と利用

次に居室の名称と利用方法を見る(表7)。

D: ドトルゲルと呼ばれる。一行二室だけにある居室である。南窓側の下にハンジを設置している。布団などのタンス、衣服を収納する戸棚やテレビなどの電化製品を置き、寝室として使い、接客・食事にも利用している。

G: ガダンゲルと呼ばれる。茶碗の戸棚、水桶、調理器具などを置いている。ここにはストーブを設置し、調理しながらハンジの熱源を給供し、台所として使われる。

Ju/B: 一行三室、二行三室、二行多室だけにある居室である。ジュンゲルとバルンゲルと呼ばれる。両方とも寝室として使い、主人夫婦はほとんどジュンゲルを利用し、子供は主人夫婦と共用する。年長者がいる場合はジュンゲルとバルンゲルのどちらかを利用し、年長者が使用している居室は接客居間として使う。仏壇や祖先の肖像などをBの右壁にかけるか壁に立てかけ棚に置くことが多い。

A: アルンゲルと呼ばれる。二行多室だけにある居室であり、世帯により使用内容が違っている。事例1は仏壇などを置き、宗教儀式を行っている。事例4・6は専用の寝室になっている。

Dn: ドムドゲルと呼ばれる。二行三室、二行多室だけにある居室である。世帯により使用内容が違っている。事例1・8は洗面、事例7は高齢者の寝室になっており、仏壇などを置いている。

T: トゴンゲルと呼ばれる。一行三室b・二行三室、二行多室だけにある居室であり、調理場として使われている。ここにはかまど、ストーブなどの施設を設置し、調理する同時に寝室の暖房を供給する。または穀食、茶碗などの棚、バケツなどを置いている。

Jo: ジョチンネゲルと呼ばれる。一行三室b、二行多室だけにある居室である。ソファ、テレビ、ティーテーブルなどを置き、二行多室で接客をする場所になっている。事例7は専用店舗であり、接客はJuを使用している。

Ho: ホーロンゲルと呼ばれる。冷蔵庫、テーブルなどを置き、多室型の食事専用の場所になる。

U: オンタフゲルと呼ばれる。一行三室b、二行多室だけにある寝室である。普段は子供が利用する、また客の就寝に使われている。

Hm: フムルゲと呼ばれる。一行

三室b、二行三室、二行多室だけにある居室である。物の収納場所で住宅内に設置している場合と住宅外に設置する場合がある。穀食、アブダル(箱)など普段、使う物を収納する。

Te: テルゲンボンと呼ばれる。二行多室(事例6以外)だけにある居室である。住宅外に設置されている場合が多い。車、または農耕機具などを置き、さらに家畜の餌、ゲルの骨組み、フェルト類なども収納している。

Wu: ウーデンゲルと呼ばれる。一行三室b、二行三室、二行多室だけにある部屋である。風や土砂などを遮るためにガラス・アルミや鉄で造られた風除室である。

3.6 行為と居室の関係

つぎに行為と各居室の関係を見る(表7)。住宅内の行為を①調理②食事、③就寝(主人)、④就寝(子供)、⑤就寝(年長者)、⑥就寝(客)、⑦接客、⑧洗面、⑨宗教儀式、⑩収納(食品)、⑪収納(農機具)とする。

行為①: 一行二室、一行三室aではほぼGを利用している。一行三室bと二行三室、二行多室の場合は専用のTを設け、そこで調理している。

行為②: 一行二室ではDで行い、一行三室、二行三室ではJuとBのどちらかで食事をする。年長者がいる場合には年長者室を利用するのが基本である。二行多室の場合は専用のHoが設けられている。

行為③④⑤⑥: 一行二室ではDが寝室になり、ここで就寝する。一行三室aで主人夫婦はほとんどJuを利用し、子供は主人夫婦と共用する。年長者がいる場合はJuとBのどちらかを利用する。客は年長者と同じ居室を使用する。一行三室b二行三室、二行多室では専用の子供部屋(A/U)と客寝室(A/U)を設けている。

行為⑦: 一行二室ではDを利用する。一行三室aでは年長者の利用している室で接客する。または主人夫婦室を利用する。一行三室b、二行三室と二行多室では専用のJoを設けている。

行為⑧: ほぼGで行っている。二行多室型ではHoを使用している場合もある。

行為⑨: 先祖の肖像、写真、仏壇仏具などを置き、宗教儀式を行う。一行二室の場合はDを利用し、一行三室、二行三室ではBで行う。二行多室では専用の一室を設けるか年長者の居室を利用する。

行為⑩: 一行二室と一行三室ではほぼ別の建物Hmに収納する。二行三室、二行多室では専用のHmを設けている。

行為⑪: 事例6以外は、ほぼ別の建物である。

表7 各居室の名称と利用

タイプ	各居室	A	D	G	Ju	B	Dn	T	U	Jo	Ho	Hm	Te	Hm/Te (別建物)	Wu
一行二室	事例9i(母)		②③④⑤⑥⑦⑧	①③⑩											
一行三室a	事例1			①③	⑥	②③⑦⑨							⑩⑪		
	事例10i			①③	⑥	②④⑤⑦⑨							⑩⑪		
	事例12			①③	②③⑦	⑥							⑩⑪		
一行三室b	事例3				③			①	⑥	⑦	②		⑩⑪		○
	事例5			③	④⑥	②③⑦⑨		①					⑩⑪		
	事例10ii			②③	③④	⑦⑨		①	④⑥				⑩⑪		
	事例11			③	②⑥⑦⑨	③④⑤		①				⑩	⑪		○
二行三室	事例8				②③⑦⑨	④⑥	③	①				⑩	⑪		
	事例9ii			③	⑤⑥⑦	③④⑨		①				⑩	⑪		
二行多室	事例2	⑨			③		③	①	⑥	⑦	②		⑩⑪		○
	事例4	④⑥			③③			①		⑦	②③⑩		⑪		
	事例6				②③⑦			①③④				⑩	⑪		○
	事例7	⑥			③	④		⑤⑨①		⑦	②③		⑪		○
行為の項目:		①調理 ②接客	②食事 ③洗面	③就寝(主人) ⑨宗教儀式	④就寝(子供) ⑩収納(食品)	⑤就寝(年長者) ⑪収納(農機具)	⑥就寝(客) ○あり								

以上の一般的な居室、その利用用途をまとめると図6の通りである。(1) 一室では、①～⑩の行為を一つの居室で行う。(2) 一行二室では、Dで行②③④⑤⑥⑦⑨を、Gで①⑧⑩をするように分けられる。(3) 一行三室aでは、Ju、B、Gがある。DがJu、Bの二室になる。年長者と夫婦は別々で使うようになり、宗教儀式、年長者の寝居はBで行う。年長者は一般的にBを利用するのが多く、③⑥はJu、②④⑤⑦⑨はBを使う。Gは変化がない。(4) 一行三室bでは、Ju、Bでの利用は大きく変化がない。GがGとTの二つに分けられ、Gで⑧を、Tでは①⑩をする。(5) 二行三室では、Ju、Bでの行為③④⑤⑥⑦⑨^{注21)}、Gでの⑧は変わらない。Hoでは②をするようになった。住宅の後ろ側にT、Hmが増えてきて、Tでは①を、Hmでは⑩をする。(6) 二行多室では間取りが大きく変化し、Bがなくなり、Joで⑦、Uで⑥、Dnで⑩、Aで⑨をする、Wu風除室である。Juで③④、Gで⑧、Hoで②、Tで①、Dnで⑩をする等それぞれの専用の部屋が設けられている。

これ以外には⑩農機具を収納Hmと車やオートバイなどを置くTe(車庫)が別の建物としてある。

3.7 他地域の比較による半牧半農地域における住居変容の特徴

先行研究をもとに内モンゴル他地域と比較すると、バイシンの間取りの変化は一行三室まではほぼ共通しており、それ以降は地域によって異なる。相異点は下記の通りである。

①牧畜地域では第一・第二土地分配政策以降に土地の囲い込みが普及し、自由な遊牧が不可能となり、居はゲルからバイシンへと変容した。シリングルでは夏季または草切り時期には各自に分配された牧草地上でゲルを併用し、バイシンは一行三室以降規模の拡大は進んでいない¹¹⁾。アラシャでは、複数の固定式バイシンを異なる場所へ設置することで季節移動を継続しており、バイシンは一行三室以降、中庭型になっている¹²⁾。それらに対して、半農半牧地域では第一・第二土地分配政策以前から定住化が進んでおり、政策によって各世帯に分配された敷地範囲の区切りが明確化され、年中同じ場所で生活し、移動しない。家畜の定住も進んでいることから、中国全土における生活環境の現代化の影響を強く受けているといえる。赤峰では住居の面積規模の拡大が進んでいるが、敷地の制約でバイシンが北側に拡張されている。②バイシンの入口は住居のタイプ、種類また道路の位置に関係なくすべて南東にあった。ゲルの入口は南東にあり、バイシンが複雑化してもこの特徴は引き継がれている。二行多室になると空間構成が複雑化し、西側にあるB(寝室)がJo(居間)に変化している。しかし、大事な行事儀式や年配者の利用、接客は引き続きJoで行われている。ゲルでは西側が上位であり、この特徴はシリングル、アラシャと共通している。

4. 結論

4.1 まとめ

以上の分析を通して、半農半牧地域における農牧民の生活様態、農牧業の基本状況、住居の変化過程に関して、以下のことが明らかになった。

(1) 現地は牧業とともに農業も重要な生産形態になり、定住型の半農半牧ガチャである。当地では年間を通して農業、牧業に従事し、重要な収入源である。農業のみに従事する世帯は1軒、牧業のみに従事する世帯は3軒、半農半牧は8軒あった。

家族構成は夫婦のみ世帯が2軒あり、夫婦と子供の世帯が4軒。年長者、夫婦と子供の世帯が5軒。4人兄弟の世帯が1軒ある。

(2) 牧畜は五畜の内、馬とラクダの飼育が減少し、現地は主に羊、ヤギ、牛を飼育している。これ以外には犬、鶏なども飼育されている。農業もモンゴル族特有のモンゴルバダなどの栽培が減少し、現在は主にトウモロコシを栽培している。主要な食料源であり、余剰分は販売し収入になる。またトウモロコシの茎葉は家畜の飼料として利用されている。これ以外にヒマワリ(種)、ソバ、緑豆なども栽培している。

(3) 一行三室の住宅までは住宅が東西方向に広がっているが、この変化はシリングル、アラシャでも見られる。ホルチン地域では、敷地的な制約があり、それ以降、住宅は南北方向に拡充される。増築する場合も北側に増築していた。

(4) 平面の基本タイプは一室、一行二室、一行三室、二行三室、二行多室の5つに分けられる。土地分配以前、社会主義的集団体制時には、現物支給が基本であり、住宅は生活するための最低限の面積を有するのみであった。この時期間取りは一室から一行二室(D、G)、さらに一行三室(Ju、B、G)に変化した。第一土地分配以降は、中国全土の経済発展及び各世帯で現金収入が得られることもあり、間取りが拡大し一行三室の北側に居室(Hm、T)を増築し、バイシンのタイプは一行三室から二行三室になった。第二土地分配以降は、さらに現代的な生活様式の導入などからバイシンの間取りは複雑化し、二行多室(Ju、B、G、T、Jo、Ho、U、Hm、A、Dn、Wu)になった。

(5) 住宅の種類と平面タイプには関連がある。一室のタイプはブムブゲンゲルである。一行二室のタイプはジムンゲルが多い。一行三室のタイプはジムンゲル、ドーチャンゲル、パンチャンゲルである。二行三室のタイプはドーチャンゲル、パンチャンゲル、レンガ造バイシンである。二行多室のタイプはほとんどレンガ造バイシンである。

(6) 間取りの変化に伴い各居室の利用行為も変わっている。一室で

基本タイプ	一室	一行二室	一行三室a	一行三室b	二行三室	二行多室
行為の項目: ①調理 ②食事 ③就寝(主人) ④就寝(子供) ⑤就寝(年長者) ⑥就寝(客) ⑦接客 ⑧洗面 ⑨宗教儀式 ⑩収納(食品) ⑪収納(農機具)	ハンジ ①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩	D②③④⑤⑥⑦⑨ G①⑧⑩	Ju③⑥ B②④⑤⑦⑨ G①⑧⑩	Ju③④⑥ B②⑤⑦⑨ G⑧ T①⑩	Ju⑤⑥⑦ B③④⑨ G⑧ Ho② T① Hm⑩	Ju③④ Jo⑦ G⑧ U⑥ Ho② T① Dn⑩ A⑨ Wu風除室
基本的居室と用途: D就寝、接客、宗教儀式、収納(日常生活品) G調理、洗面、収納(食品) B就寝、接客、宗教儀式、収納(日常生活品) Ju就寝、接客、収納(日常生活品) T調理、食事 U就寝、収納(洋服、布団など) Ho食事 Jo接客 Dn洗面、就寝、宗教儀式 Hm収納 Te収納(農機械) Wu風除室						
代表的符号: ▲入口 ■ハンジの位置 ○ストープ -- 増改築						

図6 各居室の用途と行為

はすべての行為を一居室で行っていた。一行二室になると就寝、接客、食事、宗教儀式と調理、洗面、収納の二つに分かれた。一行三室aでは主人と年長者の就寝する居室が二つに分けられ、接客は年長者の居室で行われた。一行三室bでは調理、収納と洗面が別々の居室となった。二行三室以降は、バイシンが北側に拡張され、調理空間はそこへ移動した。二行多室になると調理、収納、食事、接客、宗教儀式、収納なども専用の居室で行うようになった。

(7) 生業が牧畜から半農半牧へ変化し、住居の固定化から長年が経過しているが、ゲルの伝統的な空間構成は引き継がれている。具体的には、入口はすべて南または東南にあり、西側が上位である。

4.2 今後の課題

本研究では、内モンゴル自治区におけるモンゴル牧畜民の遊牧から定住へ、移動式住居から固定式住居への変化について、半農半牧の特徴を有するホルチン地域を取り上げることで、定住化が進行してからの変容過程を明らかにした。生業の混合や密集化など、他地域でも今後経験する可能性のある状況下での分析を通じて、モンゴル族の生活・居住文化をいかに引き継ぐかという課題を検討するための一助となったと考える。

今後は、同じくホルチン地域でもより農業化、漢族との混住が進行している通遼市、ヒンガン盟で実地調査を行い、住居の間取り、利用以外に敷地範囲との関連性を論じる上で、ホルチン地域の全体的な居住空間の変容を検討する。

本研究は、平成22年度科学研究費補助金（基盤研究B、研究代表者：中山徹）「中国・内モンゴル自治区におけるバイシンの間取りの変容に関する研究」による研究成果の一部である。

謝辞

調査にご協力頂いた皆様にお礼申し上げます。奈良女子大学文学部武藤康弘教授と奈良女子大学院生のアルンジョルさん、スチントヤさんにも調査に同行して頂いた。多くのアドバイスや協力を頂きお世話になった研究室の皆様にも心より感謝申し上げます。

注

- 注1) 四角の平面であり、ハンジと簡単な調理施設が設けられている一室型の住宅である。
- 注2) モンゴルの行政区は上位から順に自治区、盟（市）、旗、ソム（鎮）、嘎查（ガチャ）である。
- 注3) 牛小屋の北半分には屋根がかかっている。
- 注4) 内モンゴルでは移動式住宅をモンゴルゲルと呼び、固定式住宅をバイシンと呼ぶ。本稿ではジムンゲル、バンチャンゲル、ドーチャンゲル、レンガ造の固定式建築物を指す。「××ゲル」は当該地では「××バイシン」の意味で呼ばれている。
- 注5) 基本的な季節移動のほか、夏と秋は家畜の肥育、冬と春は家畜の体力を保持させるため、家畜を連れて水や草の状態がよい牧地を求めて転々と移動する遊牧法。
- 注6) 1978年12月の中国共産党第十一期中央委員会第三回会議以降、改革开放路線を進め、「生産責任制」が実施され、土地、家畜を各世帯へ分配した。使用権は15年間である。1983年までに全国に普及した。
- 注7) ガチャの下に作るコミュニティの単位。直訳すると組である。世帯数が多いガチャの場合牧畜地や農地などの土地管理を全体とするのは難しい。そのため近くに居住している人々を組み合わせ一つのドグイランにし、ガチャ内に複数のドグイランを置く。しかし、ドグイランは行政単位ではないため、土地分配の権利を持たず分配された牧畜地を管理するだけである。ドグイランにはドグイラン長がおり、ガチャの方針などを当ドグイランに所属している世帯に伝える、また住民の意

- 見をガチャに報告しガチャ長を補佐する。ドグイラン長は無給である。
- 注8) 中国の面積の単位であり、1畝=666.67平方メートルである。
- 注9) 羊、山羊、牛、馬、ラクダの五種類を五畜と呼んでいる。
- 注10) 内モンゴル地域では毎年の8月にナダム大会が行われる。競馬、相撲、アーチェリーは伝統的パフォーマンスとしてナダムで実施される。
- 注11) 遊牧民が利用している伝統的な移動式円型の住居、モンゴル語でモンゴルゲルと呼び、「ゲル」と略する。
- 注12) 村周辺の土を馬車などで運び、水を使い干し草と攪拌する。太陽光が良く届く場所に、木製の型の中にいれ、乾かす。
- 注13) 本稿では、元の建物はそのままで他の場所に新しい建物を建てること。
- 注14) 本稿では、元の建物に新たな居室を加えるなど床面積を増やすこと。
- 注15) 本稿では、元の建物を潰して新しく建物を建てること。
- 注16) 本稿では、内壁の位置を変える、もしくは床、壁の材料を変えること。ただし床面積は同じである。
- 注17) バイシンの中、寝室に設置してある暖房設備である。石、日干し煉瓦またはレンガを積み550mm～650mm程度の高さの床を張り、中に調理時の排煙を流し熱源とする。
- 注18) 本稿では、他人の建物を買うこと。
- 注19) 現地では、住宅内部の左右を表す場合、奥から入口に向かい左右を表現する。そのため、現地でB（右の部屋）と呼ばれる部屋は図面では左、Ju（左の部屋）と呼ばれる部屋は図面では右となる。本論で左右を使う場合、図面での左右の意味で使う。
- 注20) 住宅内部の各部屋の呼び方であり、現地の日常生活中で使われている呼び名の最初の文字のモンゴル語発音をアルファベットで表現したものである。
- 注21) 現地では、年長者が一般的にB、主人がJuを利用するのが多いがこの事例は例外で年長者がJu、主人がBを利用している。

参考文献

- 1) 俄、阿・馬・波茲德涅耶夫：モンゴル及びモンゴル人、内モンゴル人民出版社発行、2010.7
- 2) 珠颯：18—20世紀東部内モンゴルにおける農耕村落化の研究、西域歴史語言研究叢書、蒙古学編、巻七、内蒙古人民出版社、2009.11
- 3) ボルジギン・ブレンサイン：内モンゴル東部地域における定住と農耕化の足跡、名古屋大学大学院文学研究科比較人文学研究室、2013.3
- 4) 海日汗：モンゴル族住居の空間構成概念に関する研究、日本建築学会計画系論文集、No.579、pp.179-186、2004.5
- 5) 曹栄梅：ホルチン地域の住居「土ゲル」、アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究会発行、中央ユーラシアにおける牧畜文明の変遷と社会主義、pp.119-145、2014.3
- 6) 野村理恵、中山徹：年間を通じたゲルと固定式家屋の利用実態中国・内モンゴル自治区東ウジュウチン旗における牧畜民の定着化と居住環境変化、日本建築学会計画系論文集、VoI.75、No.654、pp.1917-1923、2010.8
- 7) 阿榮照榮、中山徹、野村理恵：内モンゴル沙漠地域における牧畜民の固定式住居及びその間取り変容に関する研究、日本建築学会計画系論文集、VoI.80、No.711、pp.1095-1105、2015.5
- 8) 阿榮照榮、中山徹、野村理恵：内モンゴル沙漠地域における牧畜民の固定式住居及びその間取り変容に関する研究、日本建築学会計画系論文集、VoI.80、No.711、pp.1095-1105、2015.5
- 9) 楊海英：遊牧から定着へー赤峰市バーリン右旗の事例を中心に一、モンゴル高原における遊牧の変遷に関する歴史民族学的研究、国立民族学博物館・民俗学研究開発センター出版、pp.91-100、2001.3
- 10) 宮越築：中国東北農村地域における住居の空間構成冬の暮らし方の変遷に関する研究、日本建築学会東北支部研究報告、2003.6
- 11) 野村理恵、中山徹：年間を通じたゲルと固定式家屋の利用実態中国・内モンゴル自治区東ウジュウチン旗における牧畜民の定着化と居住環境変化、日本建築学会計画系論文集、VoI.75、No.654、pp.1917-1923、2010.8
- 12) 阿榮照榮、中山徹、野村理恵：内モンゴル沙漠地域における牧畜民の固定式住居及びその間取り変容に関する研究、日本建築学会計画系論文集、VoI.80、No.711、pp.1095-1105、2015.5
- 13) ベーリン右旗志、1987年～2006年、内モンゴル人民出版社、内モンゴル出版集団、2011.1
- 14) 内モンゴル自治区2010年人口普查資料、2012.10.10
<http://www.tcmmap.com.cn/neimenggu/balinyouqi.html>、地図2012.8
<http://money.163.com/11/0428/10/72NJI9I00253BOH.html>、人口2012

A STUDY ON THE LIVING CONDITIONS OF HORQIN.MONGOLIA

Ulanhad City beeran baren hoxuu chagan os gachaa as subject of study

*Yujiao **, *Toru NAKAYAMA *** and *Rie NOMURA ****

* Doctor Couese, Graduate School of Nara Women's Univ.

** Prof., Graduate School of Nara Women's Univ., Dr.Eng.

*** Assist. Prof., Faculty of Engineering, Hokkaido University, Ph.D.

1.Purpose

Because of the historical background, living environment and variety of occupation, Mongolian nomadic people's living style has been changed to settlement. Mongolian nomadic people's living style has been changed, for example, changed from nomadism to semi-agricultural and semi-pastoral, the villager which people live together were built up. The research purpose of this paper is to clarify ①the change of recent occupation, living and lifestyle, ②the change and utilization of layout.

2.Method

From 5th August to 14th August, 2012, we conducted interviews and investigations about measurement of site and house with regard to the 12th houses of beeren baren hoxuu chagan os gachaa in region of horchin of Inner Mongolia.

3.Conclusions

1) In this region with stockbreeding's developing, agriculture is also becoming important products. The fixed residence is gachaa which is semi-agriculture and anti-stockbreeding. Engaged in agriculture and stockbreeding for one year, it is an important income.

2) Horses and camels in five pastoralists are reduced, recently the people raise sheep, goats and cows in stockbreeding. Corn growing is not only people's mainly food, but also become proceeds when the left corns were sold. The people feed the livestock on Stem and left of corn.

3) In region of Alxa and Xilin gol, we can see the change of spreading in the east and west on One, Two, Three-chamber. In region of horchin the limit of the site is exist, the houses are expanded to the south and north, the extension on the north side.

4) The house can be classified into 5 types — one chamber, two-chamber on one line, three-chamber on one line, three-chamber on two lines and several-chamber on two lines. Before the land distribution, payment in kind was basic, and the least area for a living in socialistic group system. At this time, the layout of a house has changed from one-chamber into two-chamber (D、G), then into three-chamber (Ju、B、G). After the first land distribution, because of economic development of China and cash income of each household, the layout of a house was expanding, living room (Hm、T) was enlarged onto the north of the three-chamber on one line. The type of the baixing has changed one line into two lines. After the second land distribution, the layout of a house became complicated from the introduction of modern lifestyle was changed into several-chamber (Ju、B、G、T、Jo、Ho、U、Hm、A、Dn、Wu).

5) The type of the residence is relation to plane. One-chamber is bumbugenger. Two-chamber on one line is jimnger. Three-chamber on one line is jimnger duutyanger bantanger. Three-chamber on two lines which is baixing by brick is duutyanger bantanger. Several-chamber on two lines are almost the brick baixing.

6) According to change of layout, an action in the room also changed. All activities are in the one-chamber. In the case of two-chamber, go to bed, wait on customers, eat, and religious ritual are finished in one room, cook, wash, and receive are finished in the other room. The type of the baixing was expanded in the north side for cooking space. In the case of several-room on two lines, each room is also for the exclusive use.

7) Stockbreeding was changed into semi-agriculture and anti-stockbreeding. Although the fixed residence are progressing for a long time, traditional spatial form of Ger was still left. Concretely, room's entrance are facing south and southeast, the west side is the most important.

(2015年8月10日原稿受理, 2016年6月22日採用決定)